



もいおかYMCA ニュース



<連載企画全5回スペシャル>

翔君のYMCAタイ農村ワークキャンプ旅行記②















3/14、一時バンコクと別れを告げ、自分たちはチェンライへ飛行機で向かった。チェンライはタイの北部に位置する自然に恵まれた都市である。そう、ここが今回のキャンプのワーク地があるところである。チェンライ空港は畑の中にポツンとある整然とした空港だ。花巻空港より小さい空港だ。

では、あらためてこのキャンプに参加したバンコクYMCA側の主なメンバーを紹介したいと思う。まず、バンコクYMCAディレクターのオイさん(女性)。ボランティアのトゥンさん(男性)。アリワンさん(女性)。何でもできる長淵(男性、通称)。運転手のジャンボ鶴田(男性、通称)さん。そして、通訳もしてくれる日本人のユウジさん。彼はバンコクの教会で宣教師をしている。この時点では以上の方々が同行してくれた。後にウィットさんと松ちゃんという重要人物が登場するが彼らについてはまた詳しく説明する。このキャンプを語る上では欠かせない人物なのである。

















この日は、あのTVやマスコミで有名な「首長族」へ訪問した。市街地から約1時間離れた山里で暮らしていた。首長族は女性のみが小さいころから首に針金を巻きつけ、首を矯正する。男性は外に出て生計を支える。女性は観光客相手に物を売る。しかし、そこにはショックな光景があった。それはあちらこちらにゴミが捨てられてあったことだ。たぶん観光客が捨てていったのだろう。それにしてもひどかった。

ジュースの空き缶からお菓子の包装紙など…TVでしかこういうことを見たことなかった自分たちにとって、彼らが文明に接していたというのもショックの1つだった。彼らが文明に接することにより「首長族」をはじめ山奥でひっそり暮らしていた山岳民族がこれからの将来も継承されていくという確信はどこにもないのだ。これが彼らにとって良い事か悪い事かどっちなのだろう。考えさせられた一時だった。

ゴールデンウィーク期間中下記の日がYMCAの通常プログラムはお休みとなります。 (ベストキッズ・アドベンチャークラブは除く)

4月29日(日)、4月30日(月)、5月1日(火)、5月2日(水)、5月3日(木)、5月4日(金)、5月5日(土)、5月6日(日)

地の塩

「見えない」「わからない」

ルソー(1712~1778)の書いた『エミール』の序文に次のような文章がある。「われわれには、子供というものがまったくわかっていない。子供についてもっている観念がどだい間違っているのだから、進めば進むほど、正道をそれていく。最も賢明な人たちでさえ、子供がどれだけのことを学ぼうかということも考えもせず、おとなが何を学ぶべきかを一生懸命考えている。彼らは常に子供の中に大人を求め、大人になる前に、子供がまずどんなものであるかということとは考えもしない」。

240年も前に書かれた「エミール」が今も新鮮に受け止められている。われわれ大人は、「今の子供はキレイやすい」「我慢ができない」「わがままだ」などとメディアが作り出す「子ども像」に振り回されていないだろうか。



現代は、大人にとっても、子どもにとっても不安な時代だ。家庭も子どもたちにとって、必ずしも居心地が良い場所とはいえない。学校でも必要以上に

気を使っている。学習についても、「勉強して何の役に立つのか」「勉強しないと置き去りにされるのではないか」という気持ちが交錯する中で「とりあえずやっておく」程度のスタンスでいる。だから子どもたちは「いつでも中斷」

「逃避」「投げ出し」の可能性を秘めているといえる。その受け皿をYMCAが担うのは、まさに時代の必然と思える。

神奈川県立高校教諭
東京コスモスワイズメンズクラブ会員
伊藤 幾夫

※ワイズメンズクラブは、ボランティア活動を通じてYMCAを支援することを主たる目的とした国際クラブ。日本国内には、141のクラブがあります。